



福島医発第397号(地)

平成26年 5月 7日

各医師会長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松 田 峻一良

(公 印 省 略)

ポリオワクチンに関するQ&Aの改訂について

今般、別添のとおり、ポリオワクチンに関するQ&Aが改訂された旨、厚生労働省健康局結核感染症課より日本医師会を通じて連絡がありました。

Q&Aの間11に関しましては、厚生労働省より製造販売業者に対し、3種混合ワクチン(DPT)を有効期限まで保管すること及び追加製造することについて依頼がなされているとともに、ワクチンが入手できない旨の相談があった市区町村は、管内卸業者に在庫状況を確認し、在庫がない場合は、厚生労働省へ連絡すれば保管場所へワクチンを手配するとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会会員に対する周知方ご高配のほどよろしくお願いいたします。

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 白石恒明
会長 蒲池 壽

(地Ⅲ21)

平成26年4月15日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

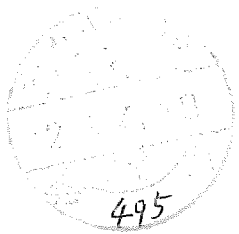
小 森 貴

ポリオワクチンに関するQ & Aの改訂について

今般、厚生労働省において、ポリオワクチンに関するQ & Aが改訂され、同省より各都道府県予防接種担当課宛事務連絡がなされましたので情報提供いたします。

本事務連絡では、製造販売業者に対して、3種混合ワクチン(DPT)を有効期限まで保管すること及び追加製造することを依頼しているとともに、ワクチンが入手できない旨の相談があった市区町村は、管内卸業者に在庫状況をご確認いただき、在庫がない場合は、厚生労働省へ連絡いただければ、保管場所へワクチンを手配するとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会管下郡市区医師会等に対する周知方について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。



事 務 連 絡
平成 2 6 年 4 月 9 日

各都道府県予防接種担当課 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

ポリオワクチンに関するQ&Aの改訂について

平素より、予防接種行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今般、ポリオワクチンに関するQ&Aを改訂いたしましたので、お知らせいたします。

また、Q&Aの問11に関しまして、製造販売業者に対して、3種混合ワクチン（DPT）を有効期限まで保管いただくこと及び追加製造することをお願いしているところです。

ワクチンが入手できない旨の相談があった市区町村は、管内卸業者に在庫状況をご確認いただき、在庫がない場合は、厚生労働省へ連絡いただければ、保管場所へワクチンの手配をいたしますので、ご承知置きください。

上記の内容を貴管内市区町村に周知いただきますよう、お願いいたします。

ポリオとポリオワクチンについて

問 1. ポリオってどんな病気ですか？

- **ポリオは、人から人へ感染します。**

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。

- **ポリオウイルスに感染すると手や足に麻痺があらわれることがあります。**

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫ができます。

しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在、残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

問 2. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

- **予防接種によってポリオの大流行を防ぐことができました。**

日本では、1960（昭和 35）年に、ポリオ患者の数が 5 千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により、流行はおさまりました。1980（昭和 55）年の 1 例を最後に、現在まで、野生の（ワクチンによらない）ポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。

- **今でも、海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。**

海外では、依然としてポリオが流行している地域があります。パキスタンやアフガニスタンなどの南西アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国です。

ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国（あるいは入国）してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。

- **ポリオに対する免疫をもつ人の割合が減ると、流行する危険があります。**

仮に、ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、現在では、ほとんどの人が免疫を持っているので、大きな流行になることはないと考えられます。シンガポール、オーストラリアなど、予防接種の接種率が高い国々では、ポリオの流行地からポリオ患者が入国しても、国内でウイルスが広がらなかったことが報告されています。しかし、予防接種を受けない人が増え、免疫を持たない人が増えると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫を持たない人から持たない人へと感染し、ポリオの流行が起こる可能性が高まります。

問 3. 生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンはどう違うのですか？

- **生ポリオワクチンには、病原性を弱めたウイルスが入っています。**

「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。ポリオに感染したときとほぼ同様の仕組みで強い免疫が出来ます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出ることがあります。その他、麻しん（はしか）や風しん（三日ばしか）のワクチン、結核のＢＣＧが生ワクチンです。

- **不活化ポリオワクチンは、不活化した（殺した）ウイルスからつくられています。**

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し（＝殺し）、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません（ただし、発熱など、不活化ワクチンでも副反応が生じることがあります。）。その他、百日せきや日本脳炎のワクチンが不活化ワクチンです。

- **2012（平成 24）年 9 月 1 日から生ポリオワクチンの定期予防接種は中止され、不活化ポリオワクチンの定期接種が導入されました。**

ポリオワクチンの接種方法について

問 4. 不活化ポリオワクチンの接種回数・年齢・方法はどのようになりますか？

- **不活化ポリオワクチンは、初回接種 3 回、追加接種 1 回、合計 4 回の接種が必要です。**

不活化ポリオワクチンの接種年齢・回数・間隔は、次のとおりです。初回接種（3

回) : 標準的には生後 3 か月から 12 か月に 3 回 (20 日以上、標準的には 20 日から 56 日までの間隔をおく)

- 追加接種 (1 回) : 初回接種から 12 か月から 18 か月後 (最低 6 か月後) に 1 回

なお、この期間を過ぎた場合でも、生後 90 か月 (7 歳半) に至るまでの間であれば、接種ができます。過去に生ポリオワクチンを受けそびれた方も、対象年齢内であれば、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けていただくことが可能ですので、接種されることをおすすめします。

問 5. 生ポリオワクチンを受けたことがある場合、不活化ポリオワクチンを受けられますか？ 受ける必要がありますか？

- 不活化ポリオワクチン導入前に 1 回目の生ポリオワクチンを接種した方は、2 回目以降は不活化ポリオワクチンを受けることになりました。

生ポリオワクチンを 1 回接種した方は、不活化ポリオワクチンを 3 回接種することになりました。

- すでに不活化ポリオワクチン 1～2 回と生ポリオワクチン 1 回を受けている場合でも (順番問わず)、不活化ポリオワクチンの定期接種を受けられます。

生ポリオワクチン 1 回と不活化ポリオワクチンを合計して 4 回となるよう、残りの不活化ポリオワクチン 1～2 回を定期接種として受けることが可能です。

- 生ポリオワクチンをすでに 2 回接種された方は、不活化ポリオワクチンの追加接種は不要です。

問 6. 不活化ポリオワクチンを、他のワクチンと同時接種できますか？ 他のワクチンとの接種間隔は？

- 医師が特に必要と認めた場合は同時接種可能です。
- 6 日以上あければ他のワクチン接種が可能です。

不活化ポリオワクチンを接種した日から、別の種類の予防接種を行うまでの間隔は、6 日以上

おく必要があります。

また、不活化ポリオワクチンが接種できるのは、他の不活化ワクチン（三種混合ワクチン（DPT）、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、インフルエンザ ワクチンなど）を接種してから6日以上、他の生ワクチン（BCG ワクチンなど）を接種してから27 日以上の間隔をおいてからです。

使用する不活化ポリオワクチンについて

問 7．単独の不活化ポリオワクチンと 4 種混合ワクチン、どちらを接種するのですか？

- これから DPT ワクチン、不活化ポリオワクチンの接種を始める方は、原則として 4 種混合ワクチンを使用してください。

今後三種混合ワクチン（D P T）の供給が減る見通しであり、D P T ワクチンも不活化ポリオワクチンの接種をまだしていない方は、原則として 4 種混合ワクチンを使用してください。

- すでに接種を始めている方は、原則として最初に使用した不活化ワクチン（単独又は 4 種混合）を使用していただくことになりますが、併用は可能です。

原則として最初に使用した不活化ワクチン（単独又は 4 種混合）を使用してください。ただし、ワクチンの供給状況などに応じて接種の途中からワクチンを切り替えることは可能です。国内臨床研究により、単独の不活化ポリオワクチンと 4 種混合ワクチンの併用で、十分な効果があることが確認されています。

問 8．すでに三種混合ワクチン（D P T）と単独の不活化ポリオワクチンを同じ回数ずつ接種

していますが、残りの接種は四種混合で接種しても大丈夫ですか。

- 今後三種混合ワクチン（D P T）の供給が減る見通しであり、必要に応じて四種混合ワクチンを使用してください。

今後四種混合ワクチンの供給が増え、三種混合ワクチン（DPT）の供給が減る見通しであることから、三種混合ワクチン（DPT）と単独の不活化ポリオワクチンを同じ回数ずつ接種している場合、必要に応じて残りの接種は四種混合ワクチンを使用してください。なお、国内臨床研究により、単独の不活化ポリオワクチンと4種混合ワクチンの併用で、十分な効果があることが確認されています。

問 9．三種混合ワクチン(DPT)の接種を完了していますが、ポリオワクチンの接種が完了していません。どのワクチン製剤で接種を完了させれば良いですか？

- 原則として単独の不活化ポリオワクチンを使用してください。

最初に使用したワクチンを使用するのが原則ですので、単独の不活化ポリオワクチンを使用してください。

問 10．経口生ワクチンを2回接種済みですが、三種混合ワクチン(DPT)の接種が完了していません。どのワクチン製剤で接種を完了させれば良いですか？

- 原則として三種混合ワクチン（DPT）を使用してください。

最初に使用したワクチンを使用するのが原則ですので、三種混合ワクチン（DPT）を使用してください。ただし、三種混合ワクチン（DPT）が入手困難になった場合は、代わりに4種混合ワクチン（DPT－IPV）を使用することも可能です。

問 11．不活化ポリオワクチンを必要回数（4回）接種済みですが、三種混合ワクチン(DPT)の接種が完了していません。どのワクチン製剤で接種を完了させれば良いですか？

- **原則として三種混合ワクチン（DPT）を使用してください。**

最初に使用したワクチンを使用するのが原則ですので、三種混合ワクチン（DPT）を使用してください。不活化ポリオワクチン（単独又は4種混合）を合計4回を超えて接種することは現段階で安全性が十分確認されておらず望ましくないため、三種混合ワクチン（DPT）が入手できない場合はお住まいの市区町村に相談してください。